

自動車部品中心のプレス加工会社。精密銅部品の製造を得意とし、指先大の小物から大物まで柔軟に対応する。中でも銅の厚板からバスバーや機能部品を製造する技術に長けている。

株式会社遠藤製作所

ばねづくり工場としてスタート

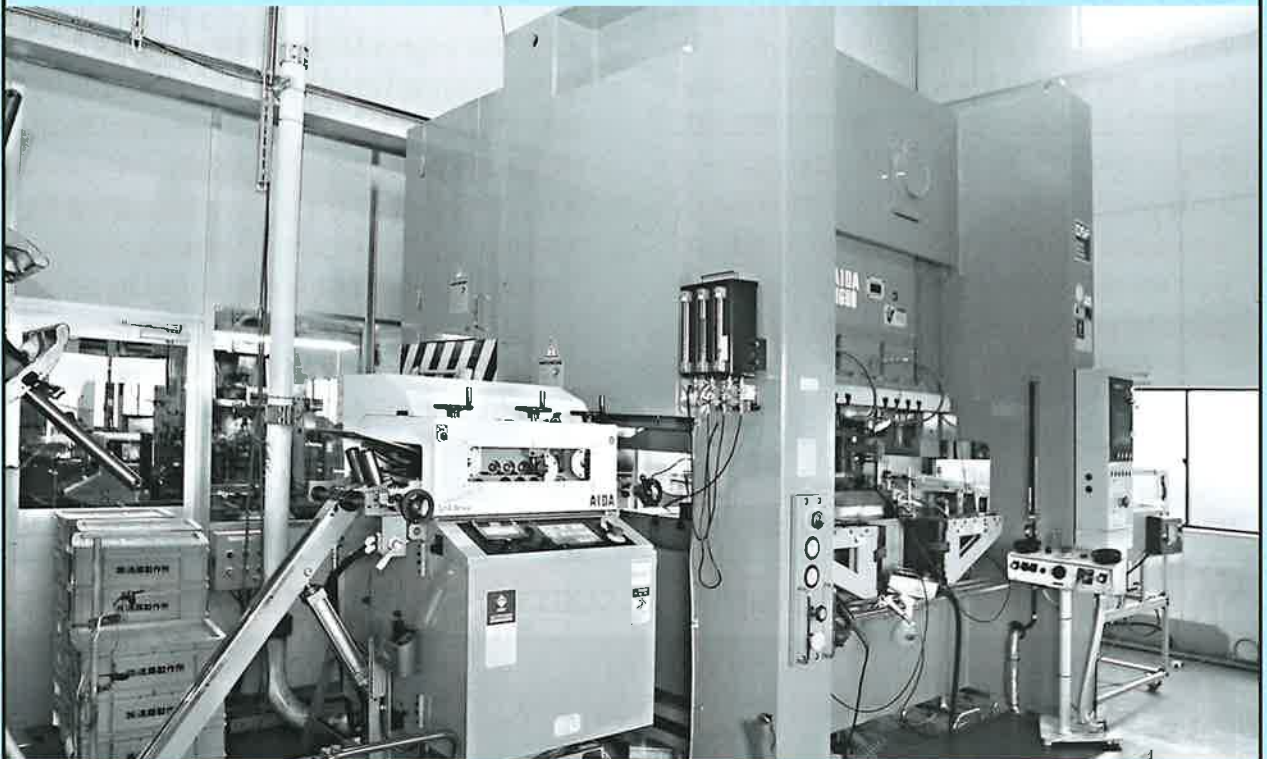
(株)遠藤製作所は1950年に松下電工(株)(現パナソニック(株))のばねづくりの協力工場として三重県津市三重町(当時)で創業。トーションマシンやコイルリングマシンを用いた線ばねづくりを始めた。その後、マルチフォーミングマシンや小型プレス機を用いた板ばねづくりも手がけるようになった。これらのばねづくりは現在も続いているが、業態は徐々に変わり、今では売上高に占めるばねのウエイトは1割程度となっている。

自動車部品のプレス加工にシフト

転機となったのは1980年に現在地である久居工業団地(津市戸木本町)に工場を移転したことである。「その際、ばねづくりだけでは事業の発展性は見込め

ないと考えた先代(現会長)の判断で、自動車部品をはじめ新規分野への参入へと舵を切ったのです」と現社長の遠藤祐司氏は話す。それが功を奏した。ばねづくりを継続させつつ、プレス加工と金型の設計製作に力を注いだ結果、新規の顧客を獲得することができた。

「その頃からですね。AIDAさんとのお付き合いが始まったのは。ただし、初めはAIDAだけでなくさまざまなメーカーのプレス機を使っていました」と、遠藤社長よりも一足早く入社した統括部部長の安保浩伸氏は当時を振り返る。「ところが、しばらく使っているとAIDAの優位性が際立つようになりました。剛性が強く、フレームが歪まないの、金型が安定した状態に保てるのです」(安保氏)。初めのうちはほとんどが小型のプレス機でその差は分からなかった



▲ダイレクトサーボフォーマー DSF-N2-1600 (160トン) + レベラーフィーダー LFA-L